

甲 第 号

横田 尚弘 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	矢野 寿一
論文審査担当者	委員	教授	和中 明生
	委員(指導教員)	教授	北原 紘

主論文

Retrospective evaluation of secondary effects of hearing aids for tinnitus therapy in patients with hearing loss

難聴患者における耳鳴り治療のための補聴器の副次的効果の遡及的評価

Yoshihiro Yokota, Akinori Yamashita, Shinji Koyama, Koichi Kitano, Shintaro Otsuka, Tadashi Kitahara.

Auris Nasus Larynx. 2020 May 4:S0385-8146(20)30072-9. Online ahead of print.

論文審査の要旨

本研究は、補聴器の装用調整を行った難聴患者に併発する耳鳴に対して、補聴器装用による音響療法の効果を検討したものである。

2016年4月から2018年9月までの30か月間に大和高田市立病院・補聴器外来を受診し、耳鳴を併発している難聴患者66例(男性31:女性35、年齢78.00±8.00)を対象とした。耳鳴側は両側41例、一側25例。装用側は両側23例、片側43例の計89耳。両耳装用の23例は両側耳鳴が17例、片側耳鳴が6例であった。片耳装用43例は両側耳鳴が24例、片側耳鳴が19例、補聴器と耳鳴が同側は6耳、補聴器と耳鳴が反対側は13耳であった。補聴器使用直前および使用12ヶ月後におけるTHI、VAS(耳鳴の苦痛度、耳鳴の大きさ)、HADSと呼ばれるアンケート評価項目の変化を測定し、補聴器を用いた音響療法の治療効果を検討した。

両側耳鳴症例では、補聴器の両耳装用および片耳装用とも有意な耳鳴治療効果が認められた。片側耳鳴への片耳装用の場合では、耳鳴と反対側に装用した症例では耳鳴改善傾向が認められなかったが、耳鳴と同側に装用した症例では耳鳴改善傾向がみられた。

公聴会においては、補聴器による音響治療が聴覚伝導経路、苦痛自覚経路にどのように作用して効果を呈するか、わかりやすく説明した。また、補聴器による音響治療に併用する薬物治療についての質問には、内耳血流改善のための循環改善薬と耳鳴過敏性抑制目的の抗不安薬という対症療法のみ存在していること、耳鳴と幻肢痛との相関性から聴覚伝導路における痛み受容体TRPファミリーを修飾するような薬物治療の基礎研究が行われていること、などを適切かつ的確に回答した。以上より、博士課程の学位論文としてふさわしいものと考えられる。

参 考 論 文

1. 補聴器外来の現況

小山 真司, 横田 尚弘, 北原 紘

耳鼻咽喉科臨床 (0032-6313)109 卷 11 号 Page765-770(2016.11)

2. Surgical results and psychological status in patients with intractable Ménière's disease

Yoshihiro Yokota, Tadashi Kitahara, Masafumi Sakagami, Taeko Ito, Takahiro

Kimura, Tadao Okayasu, Akinori Yamashita, Toshiaki Yamanaka

Auris Nasus Larynx. 2016 Jun;43(3):287-91.

3. Facial dismasking 法を用いて摘出し得た側頭窩の転移性腎細胞癌の 1 例

太田 一郎, 桑原 理充, 小林 武彦, 飯岡 弘至, 横田 尚弘, 岡本 英之, 山中 敏彰, 細井 裕司

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 (0914-3491)82 卷 8 号 Page557-561(2010.07)

4. 感染性内頸静脈血栓症の 1 症例

小成尾 一彦, 岡本 英之, 小林 武彦, 三上 慎司, 横田 尚弘, 細井 裕司

口腔・咽頭科 (0917-5105)23 卷 1 号 Page111-115(2010.03)

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに耳鼻咽喉・頭頸部機能制御医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和2年9月8日

学位審査委員長

微生物学

教授 矢野 寿一

学位審査委員

機能形態学

教授 和中 明生

学位審査委員(指導教員)

耳鼻咽喉・頭頸部機能制御医学

教授 北原 糺